

**そぞう  
<制作工程> 塑像=粘土 と 型取りと成型=石膏**

- 1) 粘土を使って立体を作る。板の上に固定できるよう接地面を大きくし、安定の良い形にする。
- 2) 前後左右から見て立体感を確かめる。表面をならし形を抜けやすくする。(抜け勾配を考慮する)
- 3) 石膏が流れ出ないように土手を作る。(厚さ 10mm くらい)
- 4) 石膏を溶く(水 1:石膏 1 の割合→水の中に石膏を振り入れていく)
- 5) 粘土の表面を石膏で覆っていく。(1 層目)
- 6) 2回目も同じように石膏を溶き、少し固まったところで、へらを使って、均等な厚さになるように、隙間なく盛り付けていく。(2 層目)
- 7) 石膏が固まったら、板から外して、粘土を型から取り出す。(ほじくり出す)
- 8) 石膏の内側(雌型)の粘土をきれいに取り除き、離型剤(カリ石鹼)を塗って乾かす。
- 9) 石膏を溶き、型の内側に流し込む。補強材(サイザル=麻の繊維)が必要な形は入れる。
- 10) 固まるまで数分待ち、外側の雌型を壊して、中の形を取り出す。

出来上がったものは、日が経つにつれて、真っ白な石膏から水分が抜けて硬化し、味わい深い色合いになります。

## 彫刻ワークショップ 講師

彫刻家

**相原正美** あいはらまさみ

## ◆プロフィール◆

東京都出身、北海道帯広市在住。  
1987 年多摩美術大学学院・美術研究科彫刻専攻修了。1991 年より、ジョージア、ギリシャ、ヴェトナムなどの彫刻シンポジウムに参加しながら、制作活動を続ける。1997 年に帯広にて制作スタジオを作り、移住し、街づくりや店舗デザインなどにも関わる。  
2006 年より、フィンランド、オランダ、イギリスのアーティスト・イン・レジデンスで現地制作を経験し、十勝でも帯広コンテンポラリー・アート展や Obihiro ほっとマグフェスタなどで作品発表をしている。近年は、ワークショップやコラボレーションワークに注力、地域で少しだけ難しい子供や大人と関わりながら、自身の表現を深めつつある。  
帯広では、北の屋台、帯広畜産大学・原虫病研究センターで作品を見ることができる。



Photo by Scott Irvine

## マクラ・ショーケース&lt;Makura Showcase&gt;

幕別町本町 62 番地 2

(国道 38 号線沿いの倉庫)

※JR 幕別駅から徒歩 3 分

